

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	基礎医療科学 I		分野	基礎分野	
				教育内容	科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	
	開講期	1 年前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	芝原 雅彦				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	物質の成り立ちや、その性質について解説し、物質の集合体や溶液としての性質、有機物についての講義を行う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質を構成する粒子や分子について理解する。 2. 溶液の濃度や酸・塩基について理解できるようになる。 3. 有機化合物の官能基に基づく性質を理解し、構造からその性質を予測できるようになる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子の構造と放射能 2. 原子の電子構造 3. 周期表と元素 4. 化学結合と分子 5. 物質の量と状態 1 6. 物質の量と状態 2 7. 単位認定試験 8. 溶液の化学 1 9. 溶液の化学 2 10. 酸・塩基と酸化・還元 1 11. 酸・塩基と酸化・還元 2 12. 有機化合物の構造 13. 異性体と立体化学 14. 高分子化合物 15. 単位認定試験 					
成績評価の方法	単位認定試験(2回)の平均が 60 点以上を合格とする。					
テキスト	コ・メディカル化学～医療・看護系のための基礎化学(裳華房)					
参考図書	臨床検査技師をめざす人の基礎トレーニング(化学同人)					
備考・特色	講義はテキストをもとにしたプリントを配布する。講義中に演習問題を取り入れ理解を深める。					

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	基礎医療科学Ⅱ		分野	基礎分野	
				教育内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	
	開講期	1年 前期	2単位 30時間		主たる授業方法 講義	
担当者	李 康生				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当				
授業概要	生物学における環境生態系、細胞学、遺伝学、胚胎学、生命科学を中心とする。					
到達目標	生物の発生、進化、構成についての生命現象を習得し、人間と生物間の生態環境の関係を正しく理解し、今後の医療分野に活用できるようになる。特に、最近生物学の中で細胞学、遺伝学、生化学の分子レベルでの研究が進み、それらの最新知識と情報を講義の中に取り込みながら、将来の臨床検査での視野と思考力に役に立てる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命誕生 2. 生命を支える分子 3. ウイルス、原核、真核細胞 4. 細胞の微細構造 5. 生体の組織 6. 酵素と光合成、呼吸 7. 中間試験 8. 細胞周期 9. メンデルの法則 10. 遺伝学の基礎 11. 遺伝病 12. 発生過程 13. ヒトの受精卵から個体へ 14. ヒトへの進化、生物と地球環境 15. 単位認定試験 					
成績評価の方法	成績評価は、単位認定試験(100点満点)により行う。 60点以上を合格とし、90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDとして成績評定する。					
テキスト	最新臨床検査学講座 生物学 (医歯薬出版)					
参考図書						
備考・特色						

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	基礎医療科学Ⅲ		分野	基礎分野
				教育内容	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解
	開講期	1年 前期	2単位 30時間	主たる授業方法 講義	
担当者	三戸 志保 (臨床検査技師)			専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当			
授業概要	臨床検査に利用される機器の原理や生命現象を科学的に理解するうえで、基本となる物理学は臨床検査を支える重要な科目です。本講義を通じて、さまざまな物理現象について理解を深め、将来、臨床検査の専門家として必要となる基礎・基本を身に付ける。				
到達目標	物理学で扱う基本的な計算ができる。 医療機器の作動原理を学習するうえで、必要な物理の基本的概念が理解できる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物理学で扱う数学 (分数・小数の乗除、指数の計算、有効数字、単位換算) 2. 国際単位と記号 3. 電気と静電気 4. 電流と磁界 5. 電磁誘導 6. 電気回路 7. 中間試験 8. 交流回路 9. 交流回路 10. 電子回路 11. フィルタ回路と周波数特性 12. 増幅器 13. 音波と超音波 14. 光と放射線 15. 期末試験 				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は単位認定試験 (筆記試験 100 点) にて行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。 				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ME の基礎知識と安全管理 				
参考図書	最新臨床検査学講座 物理学 (医歯薬出版) 標準臨床検査学 医用工学概論 (医学書院) 標準臨床検査学 検査機器総論 (医学書院)				
備考・特色					

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	医療英語		分野	基礎分野	
	開講期	1 年前期	2 単位 30 時間		教育内容	科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解
	主たる授業方法	講義				
担当者	佐藤 恭子				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	医療従事者として、病気、医療に関する基本的な英単語を理解し、病気や健康に関する様々な文章を読み、それらに対する知識を英語で深める。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 簡単な英語を用いて病院での患者への対応ができるようになる。 ● 病気や健康に関する英単語を覚え、異なったテーマの英文が理解できるようになる。 ● Native speaker との実践やペアワークなどを通して、実践的な英語のコミュニケーション能力を身に着ける。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (自己紹介、授業の進め方等) 2. L1 You can live to be a hundred. 3. L2 Ten ways to prevent cancer. 4. L3 Smoking tobacco is dangerous. 5. L4 The environment and your health. 6. L5 Exercise for health. 7. 単位認定試験 8. L6 Healthy food for healthy body. 9. L7 Alcohol can be dangerous. 10. L8 Stress can ruin your health. 11. L9 Obesity is a bad thing. 12. L10 Dental care for healthy teeth. 13. L11 The AIDS crisis concerns everyone. 14. L12 Depression: Don't let it get you down. 15. 単位認定試験 					
成績評価の方法	成績評価は筆記試験 80 点、課題 10 点、従業態度 (含む予習) 10 点、計 100 点で実施し 60 点以上を合格とする。					
テキスト	Healthtalk ネリーズ出版					
参考図書						
備考・特色	授業の最初 30~40 分は、native speaker との英会話のレッスンとする。					

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	医療統計学		分野	基礎分野	
				教育内容	科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	
	開講期	1 年前期	2 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	大隈 ひとみ			専任兼任の別	兼任	
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略) 大分大学准教授 (統計学 I, 統計学 II)			
授業概要	この授業では、多くの医療系の分野で求められる統計データの解析を行う上で必要となる確率・統計の基礎的かつ重要な知識について学習する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確率に関する基礎事項を理解し、数理的な計算ができる。 2. 重要な確率分布についての性質を理解し、数理的な計算ができる。 3. 統計学の基礎的な概念や手法について理解し、具体的な問題に適用できる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学とは 2. 事象と確率 3. 確率変数と確率分布 4. 2 項分布 5. 確率変数の独立性 6. 平均と分散 7. 単位認定試験 8. 連続型確率変数 9. 正規分布 10. 母集団と標本 11. 仮説検定 12. 検定 1 (平均に関する検定) 13. 検定 2 (独立性の検定) 14. 推定 15. 単位認定試験 					
成績評価の方法	筆記試験を 2 回実施し、その平均が 60 点以上を合格とする。					
テキスト	水原昂廣, 宇野力「例題中心 確率・統計入門 改訂版」(学術出版社)					
参考図書	佐藤 敏雄, 村松 宰「やさしい医療系の統計学 第 2 版」(医歯薬出版)					
備考・特色						

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	生命倫理社会学		分野	基礎分野
				教育内容	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解
	開講期	1 年 前期	2 単位 30 時間	主たる授業方法 講義	
担当者	上野 徳美			専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略) 高等学校のスクールカウンセラーや大分産業保健総合支援センターのメンタルヘルス相談員		
授業概要	人の行動や個性の理解、他者との良好な人間関係やコミュニケーションのあり方、社会や集団の理解、生命倫理、患者の不安や行動などについての基礎的知見や考え方を学ぶ。				
到達目標	1. 人（自分や他者、医療スタッフなど）の行動や心理に関する基礎的知見を学ぶ。 2. 現代社会のストレスと健康、病、生命倫理、患者の不安に関する基礎知識を深める。 3. 人間関係の構築やチームワークに必要なコミュニケーションスキルを身につける。				
授業計画	1. 人間理解、他者理解と対人認知 2. パーソナリティと自己理解、他者理解 3. 人の感情と行動、動機づけ 4. 現代社会のストレスと健康、病 5. 現代人のストレスとメンタルヘルス 6. 人間関係構築とコミュニケーション 7. コミュニケーション技法（マイクロ技法） 8. 単位認定試験 9. 健康と病、生と死、生命倫理 10. 患者の不安と生命の質、QOL 11. 現代社会と生活習慣病の予防・改善 12. 医療者の燃え尽き症候群の予防、対策 13. 医療事故予防と対人コミュニケーション 14. チーム医療とチームワーク、リーダーシップ 15. 単位認定試験				
成績評価の方法	筆記試験 90%、課題 10%（計 100%）の割合。60 点以上を合格とする。授業への取り組みや態度も考慮する。				
テキスト	特定の教科書は使用しない。配付資料を用いて授業を進める。				
参考図書	山蔦・本田著（2021）『メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論』 南山堂 上野徳美・久田 満編（2008）『医療現場のコミュニケーション』 あいり出版 檜村正美・野村俊明編著（2020）『医療系のための心理学』 講談社 小林亜津子著（2011）『はじめて学ぶ生命倫理学』 筑摩書房 日野原重明著（1993）『生きることの質』 岩波書店				
備考・特色	各授業の中で何が重要な用語（キーワード）や概念か、主なポイントはどこかなどを意識しながら受講し、メモやノートをとる。重要用語や概念を整理、分類しておく、授業内容の理解が深まる。些細なことでも不明な点は積極的に質問してもらいたい。 授業中、少人数によるグループ討議やロールプレイも取り入れ、授業への積極的参入を促す。				

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査科

基本情報	科目名	キャリアデザイン論		分野	基礎分野	
				教育内容	科学的思考の基盤／人間と生活／社会の理解	
	開講期	1 年後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法 演習	
担当者	安達 佳輝				専任兼任の別	専任
	実務教員	■非該当				
授業概要	医療職には、多職種と連携をはかり、効果的にチーム医療を推進するための様々な対人関係能力が求められる。この科目では、グループワークを多く取り入れプレゼンテーションを行う等、チーム連携が必要な場面を提供する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) リーダーシップ、メンバーシップについて体験を通じて役割を理解する。 2) 多職種連携に必要な対人関係能力の素地を養う。 3) 臨床検査技師としての自己の職業観や将来をデザインする素地を養う。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアデザイン導入編 キャリアデザインとその背景 企業が求める人材 2. グループプレゼンテーション 1 テーマ決定とアンケート作成 3. グループプレゼンテーション 2 4. グループプレゼンテーション 3 5. グループプレゼンテーション発表 6. 現場で働く臨床検査技師 1 7. 現場で働く臨床検査技師 2 8. 現場で働く臨床検査技師 3 					
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価はグループでの成果発表を採点し成績とします。 ・成績は 90 点以上を S、80 点以上を A、70 点以上を B、60 点以上を C として「合格」とします。60 点未満は D として「不合格」とします。 					
テキスト	特にありません。					
参考図書	特にありません。					
備考・特色	リーダーをみなで支え協力し、チームの総合力を発揮してください。					

基本情報	科目名	多職種連携学		分野	基礎分野
				教育内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解
	開講期	1年 前期	1単位 15時間		主たる授業方法 講義
担当者	森尾 高樹			専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当			
授業概要	<p>患者中心の医療が求められる今日において、患者に気持ちに寄り添う関わりや、患者自らが治療内容を選択し自己決定できるプロセス、またそれぞれの専門家が一人の患者に対し協働連携することで、最適な医療を提供することが求められている。</p> <p>このような、患者中心のかかわり方、多職種が協働連携する意味や必要性について考える授業としたい。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニケーションの基本的な考え方を理解することができる。 ● 基本的なコミュニケーション技法を知り、支援対象者へその技法を活用することができる。 ● リーダーシップやメンバーシップを理解し、多職種連携を行う上での基本的な考え方を理解することができる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他者と与える「印象」はどのような要素が影響しているのか。「印象」をテーマに、グループワークを通じて、コミュニケーションの基本的な考え方について学ぶ。 2. コミュニケーションを円滑に進め上で重要となる「自己覚知」について理解を深め、言語、非言語、準言語といったコミュニケーションの構成要素について考える。 3. 発せられるメッセージ（情報）は人にどのように受け止められるか。いくつかの先行研究事例を紹介しながら、個人が誰しも持つ価値観（固定観念）との関係性を紐解き、自己のものの見方を変化させることの重要性について考える。 4. グループワークを通じ、自己のものの見方を変化させる技法「リフレーミングトレーニング」について考える。また、傾聴技法や、適切な質問技法について理解を深め、共感について考える。 5. 多職種連携が求められる背景と目的について考える。 6. リーダーシップ、メンバーシップとは何かについて考え、必要とされる能力を理解する。 7. コンセンサスゲームなどを通じて、チームビルディングに必要な要素について考える。 8. 単位認定試験 				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は100点を満点とし、60点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90点以上、優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下とする。 ・再試験は60点以上を合格とし、60点以上であっても成績は60点と記録する。 				
テキスト	「リハベシク コミュニケーション論・多職種連携論」（医歯薬出版株式会社）				
参考図書	介護福祉士養成講座編集委員会「コミュニケーション技術」（中央法規出版）				
備考・特色	グループワークを中心とした授業を展開し、学生間での関わりを重要視する授業内容としています。				

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	解剖学 I		分野	専門基礎	
				教育内容	人体の構造と機能	
	開講期	1 年前期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	実習
担当者	二宮 遼				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略) 本学にて解剖学を 5 年以上担当			
授業概要	人体の正常構造と機能について、顕微鏡を用いた実習形式で学習する。					
到達目標	①人体の正常構造と機能を組織・細胞レベルで理解する。 ②顕微鏡による組織観察技術を習得し、スケッチを用いて組織所見を説明できる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨格系・筋系・循環器系の構造と機能 2. 消化器系の構造と機能 3. 呼吸器系の構造と機能 4. 泌尿器系の構造と機能 5. 内分泌系の構造と機能 6. 生殖器系の構造と機能 7. 神経系・感覚器系の構造と機能 8. 単位認定試験 					
成績評価の方法	成績評価は、課題 70 点、実習試験 30 点、計 100 点で実施し、60 点以上を合格とする。					
テキスト	最新臨床検査学講座 解剖学, 医歯薬出版, 2019 入門組織学 (改訂第 2 版), 南江堂, 2015					
参考図書	イラスト解剖学, 中外医学, 2010					
備考・特色	組織標本の顕微鏡観察は、臨床検査技師にとって不可欠なスキルである。 本科目では、顕微鏡の使い方からスケッチの描き方まで学習し、人体の正常構造をより深く理解することを目指す。					

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	解剖学Ⅱ		分野	専門基礎分野	
				教育内容	人体の構造と機能	
	開講期	1 年 前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法 講義	
担当者	尾越 典子 (臨床検査技師)				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当				
授業概要	人体の構造、組織の種類と構成、器官系統の主な働きをマクロ、ミクロ図を目視しながら進める。					
到達目標	幹となる体の仕組みを大まかに捉える。					
授業計画	1. 人体の構成 2. 組織の種類 3. 組織の種類 4. 主な骨格器系 5. 循環器系 (大循環・小循環) 6. 脈管系 7. 呼吸器系 8. 試験 9. 消化器系 (全景) 10. 消化器系 (消化・吸収) 11. 消化器管 (肝臓・膵臓) 12. 内分泌系 13. 内分泌系 14. 泌尿器系 15. 試験					
成績評価の方法	・成績評価は単位認定試験 (筆記試験 100 点) にて行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。					
テキスト	最新臨床検査学講座 解剖学 (医歯薬出版株式会社) 入門組織学 (南江堂)					
参考図書						
備考・特色						

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	解剖学演習		分野	専門基礎	
				教育内容	人体の構造と機能	
	開講期	1 年後期	2 単位 45 時間		主たる授業方法	講義
担当者	二宮 遼				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略) 本学にて解剖学を 5 年以上担当			
授業概要	人体の正常構造と機能について、肉眼解剖学および組織学の両視点から学習する。					
到達目標	①人体の正常構造と機能を肉眼レベルのみならず、組織・細胞レベルまで説明できる。 ②解剖学的観点から、検査のメカニズムやその有用性、疾患における検査所見の意味について説明できる。					
授業計画	1. 解剖学の基礎 2. 細胞の構造や組織の種類について 3. 骨格系①：骨の構造・発生成長 4. 骨格系②：頭蓋骨・体幹の骨 5. 筋系①：筋の基本構造・分類 6. 筋系②：各部位の筋構造 7. 循環器系：血管・心臓・リンパ 8. 消化器系①：消化器の基本構造 9. 消化器系②：消化器各論 10. 中間試験 11. 呼吸器系①：鼻～気管 12. 呼吸器系②：気管支・肺 13. 内分泌系①：視床下部・下垂体 14. 内分泌系②：甲状腺・副腎 15. 泌尿器系①：腎臓 16. 泌尿器系②：尿管～尿道 17. 生殖器系①：男性生殖器 18. 生殖器系②：女性生殖器 19. 神経系①：中枢神経 20. 神経系②：末梢神経 21. 感覚器系①：視覚器・平衡聴覚器 22. 感覚器系②：味覚・嗅覚・皮膚 23. 単位認定試験					
成績評価の方法	成績評価は、筆記試験 90 点、課題 10 点、計 100 点で実施し、60 点以上を合格とする。また、中間試験を実施する。					
テキスト	最新臨床検査学講座 解剖学, 医歯薬出版, 2019 入門組織学 (改訂第 2 版), 南江堂, 2015					
参考図書	イラスト解剖学, 中外医学, 2010					
備考・特色	過去の国家試験問題を応用したレポート課題を複数回実施し、1 年次から国試を視野に入れた学習方法を身に着けることを目指す。					

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	生理学 I		分野	専門基礎分野
	開講期	1 年 前期	1 単位 30 時間	教育内容	人体の構造と機能
担当者	李 康生			専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当			
授業概要	人体の生命活動を行う際各器官の生理機能についての説明。				
到達目標	生理学は基礎医学に重要な科目である認識した上で、人体の生命活動を行う際、造血器、循環器、呼吸器、消化器などの各器官が生体内で行うプロセスを理解し、正常な生理機能と各器官の働きがいかに協同して生体内の恒常性を保っているかを把握することで、臨床生理学、病理学及び臨床検査データの解析、理解に役立てる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体液と血液 1 2. 体液と血液 2 3. 循環 1 4. 循環 2 5. 呼吸 6. 中間試験 7. 消化と吸収 1 8. 消化と吸収 2 9. 代謝 10. 栄養 11. 尿の生成と排泄 1 12. 尿の生成と排泄 2 13. 体温と調節 14. 内分泌 15. 単位認定試験 				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は単位認定試験（筆記試験 100 点）にて行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。 				
テキスト	最新臨床検査学講座 生理学 医歯薬出版				
参考図書					
備考・特色					

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	生理学 II		分野	専門基礎分野	
				教育内容	人体の構造と機能	
	開講期	1 年 後期	1 単位 30 時間		主たる授業方法 講義	
担当者	李 康生				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当				
授業概要	人体の生命活動を行う際各器官の生理機能についての説明。					
到達目標	生理学は基礎医学に重要な科目である認識した上で、人体の生命活動を行う際、造血器、循環器、呼吸器、消化器などの各器官が生体内で行うプロセスを理解し、正常な生理機能と各器官の働きがいかに協同して生体内の恒常性を保っているかを把握することで、臨床生理学、病理学及び臨床検査データの解析、理解に役立てる。					
授業計画	1. 生殖 1 2. 生殖 2 3. 防御機構 4. 神経生理の基礎 5. 神経細胞の構成と機能、シナプス 6. 後期中間試験 7. 末梢神経と中枢神経 8. 感覚 9. 体性感覚と内臓感覚 10. 視覚 11. 聴覚 12. 味覚 13. 嗅覚 14. 骨格筋、平滑筋 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は単位認定試験（筆記試験 100 点）にて行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。 					
テキスト	最新臨床検査学講座 生理学 医歯薬出版					
参考図書						
備考・特色						

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	生化学 I		分野	専門基礎	
				教育内容	人体の構造と機能	
	開講期	1 年前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	濱中 良志			専任兼任の別	兼任	
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略) 医師として 35 年間勤務			
授業概要	生命現象の基礎を支える生体分子の基本的な性質および代謝を理解し、生体機能を分子レベルで説明できる力を養う。					
到達目標	基本的な分子の性質や代謝の仕組みを説明できる。 細胞内のシグナル伝達の仕組みを説明できる。 遺伝情報の流れを説明することができる。 各臓器の生化学的役割を説明できる。					
授業計画	1. 生命現象と細胞の機能 2. 細胞間の情報伝達機構と細胞の受容体 3. 細胞内シグナル伝達機構 4. 内分泌総論とホルモンの種類 5. ホルモンの各臓器における生理作用 1 6. ホルモンの各臓器における生理作用 2 7. 単位認定試験 8. 水・電解質バランスと酸塩基平衡 9. 血液の生化学 10. 臓器の生化学 1 11. 臓器の生化学 2 12. 遺伝情報の流れ 13. 遺伝子と疾患 14. 栄養素とビタミン欠乏症 15. 単位認定試験					
成績評価の方法	成績評価は、筆記試験 100 点で実施し、60 点以上を合格とする。 また、中間試験を実施する。					
テキスト	臨床検査講座第 2 版 生化学 医歯薬出版株式会社					
参考図書	https://www.youtube.com/channel/UCTSwGFAu2uGlfaCVi6zSwcQ 国試対策 暗記からの卒業					
備考・特色	動画で事前学習・事後学習を行う					

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	生化学Ⅱ		分野	専門基礎分野	
				教育内容	人体の構造と機能	
	開講期	1 年 後期	1 単位 30 時間		主たる授業方法 講義	
担当者	松尾 哲孝				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当				
授業概要	生命現象の基礎を支える生体分子の基本的な性質および代謝を理解し、生体機能を分子レベルで説明できる力を養う。					
到達目標	基本的な分子の性質と代謝を解剖生理学の知識と統合することができる。					
授業計画	1. 糖質 2. 脂質 3. タンパク質 4. 核酸 5. 酵素 1 6. 酵素 2 7. 中間試験 8. 代謝の概要 9. 糖質代謝 10. 脂質代謝 11. アミノ酸とタンパク質代謝 12. エネルギー代謝 13. 核酸代謝 14. 代謝のまとめ 15. 期末試験					
成績評価の方法	・成績評価は単位認定試験（筆記試験 100 点）にて行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。					
テキスト	最新臨床検査学講座 生化学					
参考図書	人体の構造と機能（2）生化学 医学書院 臨床検査技師国家試験問題集 2022 年版					
備考・特色						

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	臨床微生物学		分野	専門基礎分野	
				教育内容	臨床検査の基礎とその疾病との関連	
	開講期	1 年前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	講義
担当者	八尋 隆明				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略) 臨床検査技師、細胞検査士、遺伝子検査ラボ技術管理者			
授業概要	細菌、真菌、ウイルスなどの病原微生物および化学療法剤と感染防御免疫などについて学ぶ					
到達目標	病原微生物についてその形態や生化学的性状の違いについて説明できる。 化学療法剤と感染防御免疫について種類と適用を理解し説明できる。 免疫機構について説明できる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細菌の形態と構造：細菌、真菌、ウイルス、プリオンの構造 2. 微生物の代謝と増殖 3. 微生物の観察法と染色法 4. 微生物の発育条件と培養 5. 細菌培養法 6. ウイルス培養法 7. 遺伝と変異 8. 定期試験 9. 滅菌および消毒 10. 化学療法とワクチン 11. 正常細菌叢 12. 病原性と抵抗力・免疫 13. バイオハザードと院内感染 14. 精度管理と生物学的危機管理 15. 単位認定試験 					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は単位認定試験（筆記試験 100 点）にて行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。 					
テキスト	『最新臨床検査学講座 臨床微生物学』医歯薬出版、2017 年					
参考図書	シンプル微生物学 改訂第 6 版 南江堂					
備考・特色						

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	臨床血液学		分野	専門基礎分野
				教育内容	臨床検査の基礎とその疾病との関連
	開講期	1年 前期	1単位 30時間		主たる授業方法 講義
担当者	石田 郁子 (医師)			専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	血液内科専門医として、大学病院等で実務経験を有する。		
授業概要	血液疾患を診断するための血液検査において、必要となる血液学の基礎（血球の産生と崩壊、形態と機能、凝固・線溶系の機序など）について理解できるように解説する。 血液疾患の臨床的特徴とその診断、治療、経過と予後について解説し、血液疾患における血球計数、形態、血栓止血、遺伝子検査の結果の評価について解説する。				
到達目標	血液の成分機能について理解する。 各血液疾患を学習し、具体的にどのような検査を行う必要値が予想されるのかを理解する。				
授業計画	1. 血液総論 2. 赤血球について 3. 白血球について 4. 血小板について 5. 止血凝固について 6. まとめ 7. 試験 8. 赤血球系の疾患 9. 同上 10. 白血球系の疾患 11. 同上 12. 止血・凝固系の疾患 13. 同上 14. まとめ 15. 単位認定試験				
成績評価の方法	・成績評価は単位認定試験（筆記試験 100 点）にて行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。				
テキスト	最新臨床検査学講座 血液検査学（医歯薬出版）				
参考図書	血液細胞アトラス 文光堂 病気がみえる 血液				
備考・特色					

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	保健医療福祉学 I		分野	専門基礎分野	
				教育内容	保健医療福祉と臨床検査	
	開講期	1 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法 講義	
担当者	森尾 高樹				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当				
授業概要	現在の医療は「保健・医療・福祉」のすべてに密接に関与している。患者の「より良い生活」を実現させるために医療があるということを総合的に理解できる場とする。					
到達目標	<p>社会保障制度の概要を理解することができる。</p> <p>社会的弱者の立場や、気持ちを理解することができる。</p>					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の人口動態から、保健医療福祉の在り方、今後の変化などについて考える。 2. 「老老介護」や「在宅医療」などをキーワードに超高齢社会における課題について考える。 3. 社会保障の基本的な考え方や諸制度について学ぶ。 4. 超高齢社会の今を知る。(フィールドワーク) 5. 超高齢社会の今を知る。(フィールドワーク) 6. 超高齢社会の今を知る。(フィールドワーク) 7. 超高齢社会の今を知る。(フィールドワーク) 8. 単位認定試験 					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は演習を通してのレポートと定期試験を行い、総合点(100点)で評価する。 ・成績評価は100点を満点とし、60点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀:90点以上、優:80点以上、良:70点以上、可:60点以上、不可:59点以下とする。 ・再試験は60点以上を合格とし、60点以上であっても成績は60点と記録する。 					
テキスト	授業中に適宜便宜紹介する					
参考図書	<p>高齢社会白書(厚生労働省)</p> <p>保険と年金の動向(一般社団法人厚生労働統計協会)</p>					
備考・特色	グループワークやフィールドワークを通じて、学生間で意見を述べ合い、互いに考えていく授業内容としています。					

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	医用工学 I		分野	専門基礎分野	
				教育内容	医療工学及び医療情報	
	開講期	1 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法 講義	
担当者	金丸綾子 (臨床工学技士)				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当				
授業概要	現代医療において、医療機器を用いた治療は多岐に渡る。臨床検査技師として、疾病の診断のための各種生体情報の提供は必須業務であるが、各種医療機器の適応や原理等を理解することで、高度医療を支える医用工学的知識を理解する。					
到達目標	1. 各種医療機器を用いた治療の原理や構造、対象疾患について理解する。 2. 第 2 種 ME 実力検定試験に対応できる知識を養う。					
授業計画	1. 呼吸療法の紹介、自発呼吸と人工呼吸の違い 2. 人工呼吸療法の原理、構造 3. 人工呼吸療法の作用・副作用 4. 人工呼吸療法の作動原理 (調節換気モード、適応疾患・禁忌疾患など) 5. 人工呼吸療法の作動原理 (補助換気モード、適応疾患・禁忌疾患など) 6. 人工呼吸療法のモニタリング、保守・点検 7. 呼吸療法 (酸素療法・エクモ) など 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行い 100 点満点の 60 点以上を合格とし、90 点以上を「秀」、80 点以上を「優」、70 点以上を「良」、60 点以上を「可」とする。					
テキスト	ME の基礎知識と安全管理 (南江堂)					
参考図書						
備考・特色						

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	情報科学		分野	専門基礎分野	
				教育内容	医療工学及び医療情報	
	開講期	1 年 後期	1 単位 30 時間		主たる授業方法 演習	
担当者	田端 唯次 (臨床工学技士)				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	医療機関での臨床経験があり、血液浄化療法や医療機器管理などに従事			
授業概要	情報化の進展が社会や人間に及ぼす影響を理解し、情報社会に参加する上での知識や技能、および情報に対する科学的な見方、考え方を身に付ける。また、アプリケーションを用い、簡単なグラフィックス作品の制作・編集を行いながら、その基本的なオペレーション方法の習得を目指す。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療情報に対する見方・考え方を理解する ・第2種 ME 実力検定試験に対応できる知識を養う。 ・パソコンでの情報作成、オペレーション方法の習得を目指す 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 徐脈性不整脈 2. ペースメーカーの原理と構造 3. ペースメーカー適応疾患と安全対策 4. 虚血性心疾患 5. 各種インターベンション治療の原理と適応 6. インターベンション治療の実際 7. 試験 8. 情報の単位、データの表現について 9. パソコンの仕組みと周辺機器 (ソフトウェアと OS 含む) 10. 情報機器の環境設定・諸問題・セキュリティについて 11. 医療情報システムと運用について 12. パソコン演習① 13. パソコン演習② 14. パソコン演習③ 15. 試験 					
成績評価の方法	定期試験の成績で評価する。 なお、定期試験は筆記試験を行い 100 点満点の 60 点以上を合格とし、90 点以上を「秀」、80 点以上を「優」、70 点以上を「良」、60 点以上を「可」とする。					
テキスト	ME の基礎知識と安全管理 (南江堂)					
参考図書	最新臨床検査学講座 情報科学 (医歯薬出版) 最新臨床検査学講座 医用工学概論 MOS Word 2013、MOS Excel 2013					
備考・特色						

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	検査機器総論		分野	専門基礎分野
				教育内容	医療工学及び医療情報
	開講期	1 年 前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法 講義
担当者	尾越 典子 北永 裕一			専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当			
授業概要	臨床検査で使用する機器について原理、使用目的を概説し、使い方をマスター、保守点検ができるように講義する。				
到達目標	臨床検査で使用する機器について原理、使用目的を理解し、使い方をマスター、保守点検ができるようになる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 顕微鏡の原理・基本知識について 2. 顕微鏡の原理・基本知識について 3. 実習：顕微鏡の使用法・注意点(マイクロメーターで細胞の計測) 4. 実習：顕微鏡の使用法・注意点(マイクロメーターで細胞の計測) 5. 実技試験：顕微鏡 6. 天秤の原理・種類・感度・構造 7. 電子天秤・自動上皿天秤の使用 8. 遠心分離機の原理・種類・使用法 9. 恒温装置の用途・原理・使用法 10. pH 計の原理・使用法、標準液の種類 11. 比色の原理、分光光度計の構造 12. 比色計の使用法 13. 実習：溶液の最大吸収波長を計測 14. 実習：溶液の最大吸収波長を計測 15. 単位認定試験 				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は単位認定試験（筆記試験 100 点）にて行う ・成績評価は 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。 				
テキスト	標準臨床検査学 検査機器総論・検査管理総論 医学書院				
参考図書					
備考・特色					

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	血液検査学		分野	専門分野	
				教育内容	血液学的検査	
	開講期	1 年 前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法 講義	
担当者	北永 裕一 (臨床検査技師)				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	医療機関での臨床経験があり、血液検査分野に従事。			
授業概要	血液学の基礎（血球の種類、産生と崩壊、機能と形態や生化学）を学び、血液疾患の診断、鑑別、経過観察に必要な検査方法や判定および観察方法について学び理解を深める。					
到達目標	1.血液成分の種類とその性状及び機能について説明できる。 2.血球の種類とその分化、成熟および崩壊のメカニズムについて説明できる。 3.赤血球の形態と形態変化の要因が理解できる。 4.貧血の分類とその疾患の特徴を理解し、説明できる。 5.赤血球内のエネルギー代謝、ヘモグロビン代謝、鉄代謝などを理解し、説明できる。					
授業計画	1. 血液と血液検査学：血液検査学の発展、血液検査の意義 2. 血液の成分：有形成分、無形成分、血清と血漿 3. 血液の性状：循環血液量、比重、粘度 4. 血球の種類と機能 5. 赤血球の機能：物質の運搬、生体の調節 6. 血球の産生と崩壊：血球の分化と成熟、造血因子 7. 造血器官：胎生期および成人の造血組織の広がり と 退縮 8. 試験 9. 赤血球の形態：赤血球膜構造と変形能 10. 赤血球の生化学 11. 貧血の種類と赤血球形態、及び血液疾患 12. 溶血性疾患と検査方法（自動血球計数装置・網状赤血球） 13. 塗抹標本の作製：観察部位 14. 末梢血液像の観察、スケッチ 15. 試験					
成績評価の方法	・成績評価は単位認定試験（筆記試験 100 点）にて行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。					
テキスト	最新臨床検査学講座 血液検査学					
参考図書	J AMT 技術教本シリーズ「血液検査 技術教本」(丸善出版) 矢富裕、増田亜希子、常名政弘 編「血液形態アトラス」(医学書院)					
備考・特色	教科書に関連した資料を配付する					

基本情報	科目名	血液検査学実習 I		分野	専門分野
				教育内容	血液学的検査
	開講期	1 年 後期	1 単位 45 時間		主たる授業方法 実習
担当者	北永 裕一 (臨床検査技師)			専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	医療機関での臨床経験があり、血液検査分野に従事。		
授業概要	血液疾患を診断するための血液検査として血液細胞の算定方法や塗抹標本の作製、塗抹標本の染色及び観察方法について学び理解を深める。さらに実習において検査技術を習得しながら理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.末梢血液の赤血球数、白血球数、血小板数を計算盤により算定する方法を習得する 2.貧血の分類と赤血球形態により貧血の機序が推定できる。 3.赤血球の形態と形態変化の要因が理解できる。 4.貧血の分類とその疾患の特徴を理解し、説明できる。 5.白血球細胞の種類と機能を説明できる。 6.末梢血に出現する白血球細胞の鑑別ができる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液細胞に関する検査と意義 2. 血球計算盤の取り扱い方法、計算盤の容積算出方法 3. 自動血球計数装置の測定原理、Hb、Ht の算出方法 4. 赤血球形態の物理的、器械的变化 5. 赤血球形態と貧血症 6. 顆粒球系細胞の分化成熟 7. 顆粒球系細胞の分類と機能 8. 白血球の形態変化 9. 血球計数実習：希釈液の作成、計算盤を使用して赤血球数・白血球数を算定する 10. 血球計数実習：希釈液の作成、計算盤を使用して赤血球数・白血球数を算定する 11. 血球実習：ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値の測定 12. 血球実習：ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値の測定 13. 定期試験（中間試験） 		<ol style="list-style-type: none"> 14. 末梢血薄層塗抹標本の作製方法と観察部位の確認 15. 末梢血薄層塗抹標本の作製方法と観察部位の確認 血液細胞の鑑別、顆粒球系細胞の形態的特徴 16. 血液細胞の鑑別、リンパ球系細胞の形態的特徴 17. 血液細胞の染色（種類、原理、普通染色、特殊染色） 18. 実習：塗抹標本作成、染色、観察 19. 実習：塗抹標本作成、染色、観察 20. 末梢血液像の観察（正常細胞）、スケッチ 21. 末梢血液像の観察（骨髄細胞を含む）、スケッチ 22. 定期試験（期末試験） 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は単位認定試験（筆記試験 100 点）にて行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。 				
テキスト	最新臨床検査学講座 血液検査学				
参考図書	J AMT 技術教本シリーズ「血液検査 技術教本」（丸善出版） 矢富裕、増田亜希子、常名政弘 編「血液形態アトラス」（医学書院）				
備考・特色	教科書に関連した資料を配付する				

基本情報	科目名	一般検査学 I		分野	専門	
				教育内容	尿・糞便等一般検査	
	開講期	1年後期	1単位 30時間		主たる授業方法 講義・実習	
担当者	安部 翔音				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略) 臨床検査技師として、地域中核病院等で一般検査学分野の実務経験を有する。			
授業概要	一般検査の位置づけ、検査対象となる尿検体の各測定法、測定原理、臨床的意義と評価等についての習得を行う。					
到達目標	一般検査の位置づけ、意義と重要性を理解したうえで、各種尿検査の臨床的意義と評価を正確に説明ができる。					
授業計画	1.一般検査概論 2.尿の基礎知識1 3.尿の基礎知識2 4.尿試験紙法 5.尿比重・尿浸透圧・尿pH 6.尿蛋白1 7.尿蛋白2 8.定期試験 9.尿糖1 10.尿糖2 10.実習（尿試験紙法及び尿蛋白測定） 11.実習（尿試験紙法及び尿蛋白測定） 12.実習（尿糖測定） 13.実習（尿糖測定） 14.ビリルビン 15.定期試験					
成績評価の方法	・成績評価は筆記試験と実技試験を行い、総合的（100点）に評価する。 ・成績評価は100点を満点とし、60点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90点以上、優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下とする。 ・再試験は60点以上を合格とし、60点以上であっても成績は60点と記録する。					
テキスト	最新 臨床検査学講座 一般検査学（医歯薬出版）					
参考図書						
備考・特色						

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	医動物検査学		分野	専門分野	
				教育内容	尿・糞便等一般検査	
	開講期	1年 前期	1単位 30時間		主たる授業方法 講義	
担当者	北永 裕一				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	医療機関での臨床経験があり、寄生虫卵等の一般検査分野に従事。			
授業概要	日本において日常の検査業務等で遭遇すると考えられる原虫・寄生虫及び世界的に多くの人が感染に悩まされている原虫・寄生虫などの概要・同定検査法等を出来るだけ平易に概説し、検査診断技術の向上や、その予防対策の構築に役立つ実践的な医動物学（人体寄生虫学）の習得を目標とする					
到達目標	原虫・寄生虫などの概要・同定検査法等を理解する。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医動物学総論、 2. 原虫各論①（赤痢アメーバ、ジアルジア、クリプトスポリジウム、マラリア、トキソプラズマ） 3. 線虫類各論①（回虫、鉤虫、蟯虫、鞭虫、東洋毛様線虫、東洋眼虫） 4. 線虫類各論②（糞線虫、アニサキス、顎口虫、広東住血線虫、施毛虫、回旋糸状虫） 5. 吸虫類各論①（日本住血吸虫、マソソ住血吸虫、ビルハルツ住血吸虫） 6. 吸虫類各論②（肝吸虫、肝蛭、ウエステルマン肺吸虫、宮崎肺吸虫、横川吸虫） 7. 定期試験 8. 条虫類各論①（日本海裂頭条虫、大複殖門条虫、マソソ裂頭条虫） 9. 条虫類各論②（無鉤条虫、有鉤条虫、エキノコックス） 10. 各種検査法の概説（塗抹法、集卵法、PCR法など） 11. 国家試験対策講義① 12. 国家試験対策講義② 13. 実習①原虫・寄生虫卵・成虫の観察 14. 実習②原虫・寄生虫卵・成虫の観察 15. 定期試験 					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は単位認定試験（筆記試験 100点）を行う。 ・成績評価は 100点を満点とし、60点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90点以上、優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下とする。 ・再試験は 60点以上を合格とし、60点以上であっても成績は 60点と記録する。 					
テキスト	最新 臨床検査学講座 医動物学 医歯薬出版					
参考図書	寄生虫学テキスト 文光堂 医動物学 南山堂					
備考・特色						

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	化学検査学		分野	専門分野
				教育内容	生化学的検査・免疫学的検査
	開講期	1年 後期	2単位 45時間		主たる授業方法 講義と実習
担当者	尾越 典子 (臨床検査技師)			専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当			
授業概要	人間の生命活動を分子レベルで理解することを基本に、人体の正常代謝の恒常性が崩れ、円滑な内部環境が保つことができなくなった際の身体変化を捉え病態の判定を数量化する臨床化学検査について、その意義、物理化学的手法、反応原理、検体の取り扱いを学ぶ				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人体構成を解剖組織、生化学的に捉え、細胞小器官とその働き、各臓器の機能を覚える ・血液の構成、血漿成分の構成と由来を捉える ・内分泌腺とホルモンその働きを捉える ・糖質、電解質の代謝、測定法を捉える 				
授業計画	1. 人体の構成（解剖組織細胞学的） 2. 人体の構成（化学的構成元素、組成） 3. 血液の構成、血漿の構成 4. 検体の取り扱い 5. 〃 6. 糖質の生化学と代謝 7. 血糖測定法 酵素法とその原理 8. 糖質の生化学と代謝 9. 糖尿病について 10. GOD 法実習 11. 〃 12. 中間試験		13. 内分泌腺とは ホルモンの種類 14. 下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン 15. 副腎ホルモン、他 16. ビタミンの種類と働きと欠乏症 17. 血漿中電解質の構成とその測定法と測定意義 18. 〃 Na K Cl アニオンギャップ 19. 〃 重炭酸イオン Ca Mg 無機リン 20. 〃 Fe Cu Zn 必須微量元素 21. Ca 測定実習 22. 〃 23. 期末試験		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は単位認定試験（筆記試験 100 点）にて行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。 				
テキスト	臨床検査学講座 臨床化学検査学 (医歯薬出版株式会社)				
参考図書	臨床化学(医学書院) 臨床化学検査技術教本(JAMT) 生化学 (医歯薬出版 医学書院 廣川書店)				
備考・特色					

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	遺伝子染色体検査学		分野	専門分野	
				教育内容	遺伝子関連・染色体検査	
	開講期	1 年 後期	2 単位 45 時間		主たる授業方法 講義	
担当者	花田 克浩				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	大分大学医学部助教として、分子生物学および腫瘍生物学の研究に携わっている。			
授業概要	遺伝子・染色体解析技術の進歩により、疾病に関連する因子の遺伝子を解析する遺伝子検査や染色体検査が多くなっている。これらの検査を理解するために、遺伝子・染色体の基礎知識と各種分析法の理論を理解し、その技術を修得する。					
到達目標	遺伝子・染色体の基礎知識を理解し、説明できる。 遺伝子・染色体検査法について理解し、説明できる。 遺伝子や染色体の異常が起因となる疾患について理解し、説明できる。					
授業計画	1. 遺伝子の基礎（構造と化学的特性） 2. 遺伝子の基礎（遺伝子の転写／翻訳、複製、修復） 3. 染色体の基礎（遺伝子様式） 4. 染色体の基礎（染色体の構造） 5. 遺伝子関連検査の基本（遺伝子の精製と電気泳動） 6. 遺伝子関連検査の基本（PCR 法と配列解析） 7. 遺伝子関連検査の基本（ハイブリゼーション） 8. 染色体検査の基本（染色体染色法の種類と原理） 9. 染色体検査の基本（染色体異常と FISH による解析） 10. 遺伝子関連検査の実践（PCR およびその他の DNA 増幅法） 11. 遺伝子関連検査の実践（配列解析） 12. 染色体検査の実践（染色体異常症の解析）		13. 染色体検査の実践（染色体の構造異常の解析とがん診断） 14. 遺伝子診断における臨床検査 15. 遺伝核的検査と倫理的課題 16. 遺伝子の精製法の習得 17. 染色体解析に必要な細胞培養技術の習得 18. PCR の実践 19. 電気泳動を用いた DNA 断片の解析 20. 染色体標本の作成法 21. 染色体の染色と顕微鏡を用いた解析 22. ハイブリダイゼーションの実践 23. 単位認定試験			
成績評価の方法	成績評価は、筆記試験 80 点、実技試験 20 点、計 100 点で実施し、60 点以上を合格とする。また、中間試験を実施する。					
テキスト	医歯薬出版株式会社 遺伝子・染色体検査学					
参考図書						
備考・特色						

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	微生物学検査学 I		分野	専門分野	
				教育内容	病因・生体防御検査学	
	開講期	1 年 後期	1 単位 30 時間		主たる授業方法 講義	
担当者	八尋 隆明				専任兼任の別	兼任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	医療機関にて微生物検査に携わっていた。			
授業概要	病原細菌について形態と生化学的性状および病原性と治療法・予防法を学ぶ					
到達目標	病原微生物のうち細菌各種について、形態・生化学的性状・培養法・抗原性を説明できる。 病原微生物による感染症について、感染様式・治療・予防法を説明できる。 検査法の原理と応用例について説明できる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細菌学各論 (1) グラム陽性菌 (1) ブドウ球菌 2. 細菌学各論 (2) グラム陽性菌 (2) 連鎖球菌 3. 細菌学各論 (3) グラム陰性球菌 4. 細菌学各論 (4) 腸内細菌科 (1) 大腸菌 5. 細菌学各論 (5) 腸内細菌科 (2) サルモネラ菌、赤痢菌ほか 6. 細菌学各論 (6) ビブリオ科 7. 細菌学各論 (7) パスツレラ属 8. 定期試験 9. 細菌学各論 (8) その他グラム陰性通性嫌気性桿菌 10. 細菌学各論 (9) シュードモナス科 11. 細菌学各論 (10) その他グラム陰性好気性桿菌 12. 細菌学各論 (11) グラム陰性らせん菌 13. 細菌学各論 (12) バシラス属 14. 細菌学各論 (13) その他グラム陽性好気性桿菌 15. 単位認定試験 					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は単位認定試験（筆記試験 100 点）にて行う。 ・成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。 					
テキスト	最新臨床検査学講座 臨床微生物学 医歯薬出版					
参考図書	系統看護学講座 微生物学 医学書院					
備考・特色						

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	生理機能検査学 I		分野	専門分野	
				教育内容	生理学的検査	
	開講期	1 年 後期	2 単位 45 時間		主たる授業方法 講義	
担当者	三戸 志保 (臨床検査技師)				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	臨床検査技師として、医療機関での臨床経験があり生理機能検査学分野に従事。			
授業概要	心臓の解剖学的な理解に加え電気の興奮から成り立つ心電図の機序をわかること、また正常心電図に対比して異常心電図が判読できるようになるよう心臓模型やプロジェクターを使つての講義と実習を行う。					
到達目標	心臓の解剖学的な理解をし、心電図の機序や計測を理解する。また、異常心電図の見分けができるようになる。また、心電図の電極装着など実際の測定ができるようになること。					
授業計画	1. 解剖学と生理学の復習 2. 心臓の構造と機能 3. 心電図の電氣的機序 4. 誘導法 5. 正常値計測、電気軸計測 6. 心電図実習（装着確認と計測）① 7. 心電図実習（装着確認と計測）② 8. 調律の異常、期外収縮 9. 粗動と細動（心房・心室） 10. 洞停止、洞房ブロック 11. 房室ブロック、脚ブロック、肥大 12. 中間試験 13. WPW 症候群、心筋梗塞 14. 狭心症（労作性、異型、不安定） 15. 右胸心、電極の付け間違い、正常小児		16. 電解質異常、ブルガダ症候群 17. 心電図実習（判読まで）① 18. 心電図実習（判読まで）② 19. ペースメーカーについて 20. ホルター心電図 21. 負荷心電図 (マスター 2 階段・エルゴメータ・トレッドミル) 22. ノイズ混入の対策 (筋電図・交流・ドリフト) 23. 期末試験			
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は単位認定試験（筆記試験 100 点）にて行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。 					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・最新臨床検査学講座 生理機能検査学 (医歯薬出版) ・病気がみえる 循環器 					
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・生理検査学 画像検査学 医学書院 ・心電図を読む 南江堂 ・認定心電技師のための心電図の読み方 日本臨床検査技師会 					
備考・特色						

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	医学概論		分野	専門分野	
				教育内容	臨床検査総合管理	
	開講期	1 年 前期	1 単位 15 時間		主たる授業方法 講義	
担当者	北永 裕一				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当				
授業概要	現代医療の本質を理解し、医療を支えるマンパワーとしてのコメディカルスタッフの役割を理解し、専門職同士が協力してチーム医療の重要性を学ぶとともに患者中心で科学に基づいた医療を提供するための新しい思想と技術の必要性を知り、社会的役割を果たせるようにする。					
到達目標	臨床検査技師の業務はともすれば、検体中心になりがちであるが、医療全体を大きく捉え、医療と経済、保険制度、医療の流れ（インフォームドコンセント、クリニカルリスクマネジメント、ターミナルケアなど）を十分理解する。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の歴史（古代、中世、近代）日本の医学 2. 人工環境と健康問題、医療機器の発達と移植医療 3. 先端医学の倫理的課題、生命倫理 4. 医療職種の役割と医療制度、医療提供制度 5. 医療保険制度と経済 医療の質の維持と向上 6. 患者の心理と患者主体の医療サービスと医学診断 7. 医療記録とチーム医療の方法 8. 患者の権利とターミナルケアの課題 （インフォームドコンセント、尊厳死、ホスピスケアを中心に） 					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は授業ごとにレポートを提出し内容が理解できている事を確認して評価（100点）する。 ・成績評価は100点を満点とし、60点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90点以上、優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下とする。 					
テキスト	最新臨床検査学講座 検査総合管理学（医歯薬出版）					
参考図書	医療福祉概論 医歯薬出版 学生のための医学概論 医学書院					
備考・特色						

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	基礎臨床検査学		分野	専門分野
				教育内容	臨床検査総合管理
	開講期	1 年 前期	2 単位 60 時間	主たる授業方法 講義	
担当者	尾越 典子 (臨床検査技師) 北永 裕一 (臨床検査技師) 他			専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当			
授業概要	臨床検査技師に必要な滅菌と消毒について学び、実習に必要な器具の扱い方、溶液の濃度計算を行う。				
到達目標	滅菌と消毒の基礎的な事を理解し、手洗いなど基礎を習得する。また、器具の名称、扱い方、溶液の計算も習得する。				
授業計画	1. 滅菌と消毒、滅菌装置について 2. 実習：手洗い実習① 3. 実習：手洗い実習① 4. 実習：手洗い実習② 5. 化学の基礎的事項① 6. 化学の基礎的事項② 7. パーセント濃度、モル濃度① 8. パーセント濃度、モル濃度② 9. グラム当量、規定度 10. グラム当量、規定度 11. 液体試薬からの溶液の試薬調整 12. 実習：ピペット実習（実技、洗浄法） 13. 実習：ピペット実習（実技、洗浄法） 14. 実習：ピペット実習（実技、洗浄法） 15. 試験		16. ガラス器具の種類と使用法 17. 実習：ガラス器具の種類と使用法 18. 試薬調整（生食、70%アルコール作製） 19. 実習：ピペット実習 （濃度調整と適切な器具の取扱い） 20. 〃 21. 〃 22. 〃 23. 〃 24. 〃 25. 実技試験：ピペット操作 26. 実技試験：ピペット操作 27. 実技試験：ピペット操作 28. 精度管理について① 29. 精度管理について② 30. 試験		
成績評価の方法	・成績評価は単位認定試験（筆記試験 100 点）にて行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。				
テキスト	最新臨床検査学講座 検査総合管理学（医歯薬出版）				
参考図書	臨床検査に必要な計算技法 標準臨床検査学 検査機器総論・検査管理総論 医学書院				
備考・特色					

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	関係法規		分野	専門分野	
				教育内容	臨床検査総合管理	
	開講期	1 年 後期	1 単位 15 時間		主たる授業方法 講義	
担当者	加口 克史 (臨床検査技師)				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当				
授業概要	法制度の概要を理解したうえで、医療関係者法規に関係する知識について学習する。					
到達目標	臨床検査技師として必要な法律関連の知識を学習し修得する。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査技師等に関する法律 2. 保健医療関係者法規 3. 予防・保健の各関係法規、死体解剖関係法規 4. 食品・薬事・環境衛生関係法規 5. 健康増進等関係法規、福祉関係法規 6. 労働関係法規、医療・労働保険関係法規 7. 臨床検査と医療過誤 8. 定期試験 					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は単位認定試験（筆記試験 100 点）にて行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。 					
テキスト	最新臨床検査学講座 検査総合管理学（医歯薬出版）					
参考図書	最新臨床検査学講座 関係法規（医歯薬出版）					
備考・特色						

2023 年度 大分平松総合医療専門学校 臨床検査学科

基本情報	科目名	医療安全管理学 I		分野	専門分野	
				教育内容	医療安全管理	
	開講期	1 年 後期	1 単位 30 時間		主たる授業方法 講義	
担当者	北永 裕一				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	医療機関での臨床経験があり、医療安全管理分野に従事。			
授業概要	患者との関わり、技師による検査説明、リスクマネージメントを理解する。 採血に関する正しい知識と技術の習得を行う。					
到達目標	挨拶、声掛け、患者対応ができる。検査説明とチーム医療への関わりが理解できる。 医療事故に対する正しい対応ができる。 採血に関する法律の規定とガイドラインに則した標準採血法の手技や注意事項を理解し、安全に実践できる。					
授業計画	1. 接遇とコミュニケーションスキルについて 2. 検査説明への関わりとチーム医療について 3. 医療事故とその具体的対応について 4. 採血法 1 5. 採血法 2 6. 採血法 3 7. 採血法 4 8. 採血実習（真空管採血） 9. 採血実習及び実技試験（真空管採血） 10. 採血実習及び実技試験（真空管採血） 11. 採血実習（シリンジ採血） 12. 採血実習及び実技試験（シリンジ採血） 13. 採血実習及び実技試験（シリンジ採血） 14. 採血実習（耳朶採血） 15. 定期試験（筆記）					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は単位認定試験（実技試験・筆記試験 100 点）にて行う。 ・成績評価は 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。 ・成績の基準は秀：90 点以上、優：80 点以上、良：70 点以上、可：60 点以上、不可：59 点以下とする。 ・再試験は 60 点以上を合格とし、60 点以上であっても成績は 60 点と記録する。 					
テキスト	最新 臨床検査学鋼材 医療安全管理学（医歯薬出版）					
参考図書	臨床検査技師のための医療安全管理教本 標準採血法ガイドライン GP7-A2（JCCLS）					
備考・特色						